

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・ラボ：人数や利用児に合わせて機能訓練室、みんなの部屋で分けて使用し適切なスペースを確保している。 ・第二訓練室：人数に合わせてプログラム毎に場所の指定などを行い適切なスペースを確保している。 ・スタッフの立ち位置で、死角が無くなるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		利用児1~3人に対しスタッフ1名の配置を行っており、利用児の自立度に合わせた配置をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○		・事業所内部はバリアフリー化されているが、事業所内に入るまでに階段などがある。 ・第二訓練室は、一部部屋の境に段差がある。	・階段には手すりを付け、利用者が階段を上る時は必ず一人以上のスタッフが介助するようにする。 ・第二訓練室の段差は視覚的に見えやすいように色を塗るなど検討している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		支援内容は朝礼で共有し、共通した支援を実施するようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		年に一回の保護者アンケートの結果をもとに話し合いを行い、業務内容の改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		アンケートと自己評価の結果を集計後、速やかにホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		実地指導の助言を基に、業務改善に繋げる。	コロナ禍で実地指導が実施されていないが、再開した場合は速やかに対応する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・定期的に社内の研修を行うと共に、外部の研修にも積極的に参加している。 ・月に一回テスト形式で支援の知識を学習する機会を設けている。	今年度より新たに安全運転の講習も実施し、送迎時の安全に関しても資質向上を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者や利用児本人からの聞き取りを行いアセスメントをとって支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		NCプログラムやVineland IIなど標準化された基準に基づいたアセスメントを取っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年に一度大まかなプログラムの予定をチームで作成し、月1回の頻度で詳細を話し合って決定している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	細かな内容は変更しているが、大まかなプログラムでは数年変化がない。	保護者の意見を取り入れながら、各事業所ごとのプログラムの立案を検討している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		利用児の学習進度に合わせて課題を提供している。また、中学生は自立課題の時間を長めに設定し、学習の機会を増やしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		・利用者の発達段階に応じた社会性・学習・運動機能の向上を目指し、個別活動と集団活動を毎回組み合わせ実施している。 ・個別支援計画を作成するときには専門職のスキルを取り入れている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼や支援前に職員で打ち合わせを行い、その日の注意事項を話し合い、共有して支援に臨んでいる。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・送迎後にフィードバックを行い、支援の見直しを行っている。 ・その日のうちにフィードバックが出来ない場合は翌日朝礼前に情報共有を行っている。	緊急性の高いものに関しては、スカイプなどを利用して綿密に話し合う機会を設けている。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・ケース記録を毎回支援後に入力している。情報はすぐに共有できる形で保存されている。 ・ケース記録の様式も必要に応じて適宜更新している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・半年に1度モニタリング面談を実施している。 ・個別支援計画に沿った内容や発達段階や標準のアセスメントツールを使用し計画の見直しの検討をしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		毎年4月にガイドラインを研修で確認して支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達管理責任者や年間担当者が出席し、利用者の様子を相談支援事業所や、他のデイサービスのスタッフに伝えている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		・新年度に学校の送迎ルールを確認しそれに従って対応をしている。お迎え時に今日の様子を必ず聞いて情報を共有している。 ・年間行事予定などは適宜先生に確認を取っている。お迎えに遅れそうな時などは早めに連絡をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		現在医療ケアが必要な利用者がいないため体制は整っていない。	医療的ケアが必要となれば連絡体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		先方からの引き継ぎシートを活用して情報共有を行い、継続性のある支援を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		学校卒業だけでなく、転居の際にもサポートブックを作成し、情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		・コロナにより実施できていないが、定期研修への参加に加え、毎年機関コンサルテーションを受けたりネットワーク会議に参加している。 ・第一基幹や児童相談所と連携を取って、必要に応じて支援会議に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		地域の公園で他児と遊ぶ程度の交流しか行っていない。コロナ禍でそれもおろそかになっている。	外出行事等で児童館へ行くプログラムなど、障がいのない子と交流する機会を検討する。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		機会が無く参加していない。	参加の機会があれば参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・お便り帳や電話での相談があった際には詳しく話を聞き、子どもの状況を把握するようにしている。 ・対応に困った際には管理者や児童発達責任者に相談し、問題解決に努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		保護者参加でペアレントトレーニングの研修を行っている。研修以外でも送迎時などに相談された場合にペアレントトレーニングの手法を伝えている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に契約書を見ながら詳細を説明している。保護者の方が求められる都度、管理者・担当者が説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		・モニタリング面談や送迎時、おたより帳などで相談があった場合には、解決方法を提示し、共に模索している。 ・その場で返答し難いものに関しては、一旦持ち帰って後日電話などで解答している。	・保護者と関係諸機関を交えた会議の開催を検討している。 ・必要に応じて、家庭連携支援、事業所内相談支援の内容を保護者に説明して実施することを検討している。 ・学校の行事予定と連携し、進路に向けた情報を提供する事を予定している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		オンラインで行っていたおやこっしー（保護者の会／学習会）を対面で行い、保護者が集まる機会を設け、保護者同士の交流の場を提供している。	おやこっしー（保護者の会／学習会）でペアレントトレーニングや構造化の勉強会を行うと同時に、高学年の利用者に向けて進路先の情報を提供する事を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情があった際には迅速に対応し、対応終了後に事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、情報を共有して再発防止に努めている。	

	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		Facebook、Instagramを活用し、子どもの様子を発信している。	普段の活動の様子を療育の内容解説と共に発信することを検討している。高学年の利用者の保護者に向けては進路の情報などの発信も検討している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		・情報共有の場合、データは利用者の名前を伏せ字にして行き、保存している媒体は持ち出さず、鍵のかかるキャビネットに保管している。 ・出力したものは伏字にすると同時にかぎの掛かったキャビネットに保管している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・保護者とはおたより帳や送迎時に直接話す、メールや電話などで情報伝達を行い、利用者は、それぞれに合った方法を使い、絵カードなども使用しながら情報を伝えている。 ・利用時に、本児が出来た事を送迎時に保護者に伝える。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域清掃や、制作物を渡すなどは行っているが、招待する形の交流は行っていない。	夏祭りやクリスマス会に地域の人を招待することを検討する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		・各種マニュアルを用意している。毎年6月頃にはマニュアルの見直しを行い、最新の情報に切り替えている。 ・保護者にも災害時の事業所としての行動を伝えている。	交通事故が起こった時に確認するフローチャートを作成しており迅速に対応できるようにしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的な避難訓練を行っている。年に1回職員のみでの避難訓練と、保護者の方も参加する大規模避難訓練を行っている。外部講師を招いた研修も行っている。	地震についての避難訓練は保護者と協力して行い、安全に避難できるような仕組み、会社の方針を発信していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		年に1回職員研修を行い、自分の支援が虐待に当たらないかを確認している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		万が一やむを得ず身体拘束を行う場合は、切迫性、非代替性、一時性の3つの要件が満たされている事を必ず確認するよう、職員への周知徹底を行う。	今年度より身体拘束の適正化の研修を行った。やむを得ず身体拘束が必要となる利用児がいないため実施はしていないが、実施する際には個別支援計画に記載をし保護者の了承を得る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		・アレルギー表を作成するとともに、おやつ提供に関して定期的に保護者に確認を取っている。 ・おやつ表にもアレルギーのある子を書き出し、代替品を提供している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・ヒヤリハット報告書を即日作成し、完成後すぐに事業所間で共有している。 ・フローチャートを作成し、経過観察から完了まで確実にを行うようにしている。	怪我の大きさに関わらずヒヤリハット報告書を作成し、再発防止に努めている。